

第3回 期間:2005年11月~2006年10月

1. テーマ(課題)

「循環型社会をめざす環境教育の実践」

平塚市立豊田小学校長 中島 淑子

2. 課題設定のねらい(主旨)として

深刻な地球温暖化を迎え、サステイナビリティ(Sustainability:持続可能性)への重要な方向として「循環型社会」への再構築が急がれています。

そんな中で、豊田小学校では「自然の循環に学ぶ」ことを大切に考え、児童と職員が一緒になって環境教育の実践に取り組んでいます。

自然界には存在しないゴミの問題についても「捨てること」を見つめなおし自然循環の輪の中に組み入れ有効活用する活動などに力を入れて取り組んでいます。

また、そのことは「わかば環境ISO」(国際規格であるISO14001の学校版:平塚市独自の規格)への取り組みとももちろん合致するものです。



3. 実践に向けての活動メニュー

[季節をとりこむ活動として]

- ☆「学校田」…5年生を中心に活動
(田んぼの様子を全校に知らせる
「田んぼからこんにちは」の発行など)
- ☆「学校畑」…6年生を中心に活動(調整等)
- ☆「草花栽培」…全校で協力して活動
(卒業式・入学式・運動会)

[環境ISOにとりこむ活動として]

☆省エネ(Reduce)

- 「電気」(電気を消す等)
- 「水道」(バケツ・雨水利用)
- 「石油」「ガス」の節減



☆省資源(Reuse)

- 「紙の両面使用」(両面印刷・裏面印刷)
- 「リユースBOXの活用」(色紙等)
- 「クリップ等の活用」(使い捨て物品を使わない)

☆ごみの減量(Repair)(Recycle)

- 「資源ごみへの分別」
- 「修理・修繕の徹底」
- 「EMによる堆肥化」(給食残渣・落ち葉等)



☆化学物質（Refuse）

「化学ワックス等の不使用」

（天然系ワックス・EM等の利用）

「合成洗剤の不使用」（せっけんの利用）

[児童による委員会活動として]

☆「各クラスの取り組みの紹介」

☆「ISO集会・学区内大清掃等の企画運営」

☆「他委員会との連携」

☆「アル缶（&プルタブ）・イカ-トリッジの回収」

☆「EMボカシ・EM活性液・腐葉土づくり」

☆「プールへのEM活性液投入」



4. 微生物資材（EM）について

自然の循環から学び、それを活動の中に取り入れようとすると、どうしても有機物が無機化する際の微生物の働きを利用せざるを得ません。給食残渣の堆肥化や落ち葉の腐葉土化を継続的な活動として成立させるためには、安全な微生物（善玉菌）の安定的な供給が欠かせません。



EM菌の採用・利用の理由としては、管理のしやすさ、安価であること、発売開始から数十年EM菌による事故等がないこと、各自治体、学校等教育機関での実践例が豊富であることなどがあります。

今回の助成で購入させていただいた「EM（活性液）培養タンク」によって非常に安価にEMを使うことができるようになったため、落ち葉の短期間での腐葉土化・プールの水質浄化などにも利用することができました。



5. 腐葉土小屋について

やはり今回の助成で完成した腐葉土小屋ですが、使いやすい立派なものが出来ました。腐葉土は畑や花の栽培に欠かせないものですが、それ以上に自然の循環を視覚的に、またじかに手で触れながら確認することができる最良の教材でもあります。

地域の方々からの「落ち葉」の提供もあり、腐葉土作りを通して地域の方々とのふれあいが深まりました。

6. 今後の活動について

このように豊田小学校では自然の循環を意識し季節を感じ・楽しみながら活動していますが、これからも、「いま自分たちができることは何か」を常に考えながら、まずはやってみようとする子どもたちと共に、日々の環境教育の実践を続けていきたいと思っております。